

テンプレート

属性設定とメタデータのテンプレートを提供しています。下記をクリックして必要なテンプレートをダウンロードしてご利用ください。ご利用方法は、上記のIdP,SP構築方法をご参照ください。メタデータに関しては、学認申請システムにて自動生成されますので、本テンプレートは補助的な目的でご利用ください。

- 属性設定テンプレート (IdP用)
利用方法はIdP設定の [attribute-resolver.xml](#) / [attribute-filter.xml](#) をご参照ください。
 - [attribute-resolver.xml](#) (共通)
 - [attribute-filter.xml](#) (運用フェデレーション用)
 - [attribute-filter.xml](#) (テストフェデレーション用)
 - [gakunin-rules.tar.gz](#) (共通)
 - /opt/shibboleth-idp/conf/ 以下で展開する (/opt/shibboleth-idp/conf/attributes/custom/以下に*.propertiesが配置される) ものです。
 - Shibboleth IdPバージョン4(V4)およびそれ以降用の新規のファイル群です。Attribute Registryに学認で規定されている (かつ配布物に含まれない) 属性を追加します。
 - 本ファイルはV4用のattribute-resolver.xmlと組み合わせて使うものです。典型的にはV4の新規インストール時に使用します。V3からのアップグレードの場合、V3もしくはそれ以前用のattribute-resolver.xmlテンプレートを使っている場合に限り本ファイルは不要ですが、将来的にV4テンプレートに更新するのに備えてV4環境にはインストールしておくことを推奨します。

更新情報2020年8月11日(4.0.0)

❗ 以前のテンプレートからの更新で、かつプロパティ `idp.pool.LDAP.failFastInitialize` をtrueにして使ってる場合はテンプレートを最新版に切り替えたタイミングで起動時LDAPに接続できなかった場合の挙動が変わる可能性があります (当該プロパティを参照しなくなったため)。IdP起動時にLDAPに接続できなければエラーにする (デフォルトの挙動ではありません) 場合はLDAP Connectorに `failFastInitialize="true"` を追加してください。

Shibboleth IdP 4で利用するためのテンプレートです。

以下の通りV4の新機能と整合性を取るため属性名の見直しを行いましたので、他の設定とマージを行う場合はご注意ください。なお、新属性名は学認技術運用基準で規定される属性の「friendlyName」に記載されているものです。旧属性名は同規程の「名称」に記載されているものでした。

3.4.0まで	4.0.0以降
organizationName	o
organizationalUnitName	ou
surname	sn
jaOrganizationName	jao
jaOrganizationalUnitName	jaou
jaSurname	jasn

また今回のLDAP Connectorから、V4の新機能であるAttribute Registryを使ってLDAPの値を直接送出するようになっていきます。単純なSimple AttributeDefinitionが削減可能です。詳細はファイル中のコメントを参照してください。

またeduPersonTargetedIDの設定について、以前のテンプレートではソース属性の存在 (AttributeDefinitionを定義しているかどうか) によってコメントアウトを解除するかどうかで切り替えていたものが、今回の版からソース属性のタイプによってInputAttributeDefinitionにするかInputDataConnectorにするかを切り替える形に変更になっています。詳細は該当部分のコメントを参照してください。

更新情報2019年7月18日(3.4.0)

❗ 今回からeduPersonTargetedID(ComputedId,StoredId)のエンコード方法がプロパティ `idp.persistentId.encoding` の値を反映するようになっていきます。以前のバージョンから引き続き本バージョンおよびそれ以降をお使いになる場合は、現在使っているエンコード方法を調査し、`saml-nameid.properties` に記載の値と差異がある場合は当該ファイルを修正の上本バージョンを適用してください。

調査の例:
使用している `attribute-resolver.xml` のComputedId/StoredId DataConnectorに
- encodingが設定されていなければBASE64、
- 固定値 (BASE64もしくはBASE32) が設定されていればその値、
- すでに上記プロパティを参照しているなら修正の必要なし。

Shibboleth IdP 3.4.x向けテンプレート - 3.4の配布物をベースとして再作成しました。

Shibboleth IdP 4.0で廃止予定の設定を代替の方法に修正、もしくは削除しました。
詳細: <https://wiki.shibboleth.net/confluence/display/IDP30/DeprecatedIdPV4>

ダウンロード: [attribute-resolver-template-3.4.0.xml](#), [attribute-filter-template-prodfed-3.4.0.xml](#), [attribute-filter-template-testfed-3.4.0.xml](#)

Shibboleth IdP 3.3.x向けテンプレート - attribute-resolver.xmlにおいても名前空間を省いたフラット化を行いました。

学認技術運用基準(v2.2)に新たに追加された属性 eduPersonAssurance, eduPersonUniqueid, eduPersonOrcid の設定例を追加しました。

デフォルトの名前空間の宣言が3系になって抜けていたので足しました。<resolver:AttributeDefinition>のような書き方に加えて名前空間を省略した形 (<AttributeDefinition>等) でも記述できます。

従来コメントアウトされていた LDAP Connector を有効化しました。

Shibboleth IdP 3.2.0向けテンプレート

※[[upki-fed:01034](#)]のReturnAttributesの件ですが、本テンプレートではデフォルトで記述されておりません。つまりldap.propertiesの記述によらず全てのLDAP属性を取得します。ldap.propertiesのidp.attribute.resolver.LDAP.returnAttributesの設定を反映したい場合はテンプレート内のコメントに従って修正してください。

gakuninScopedPersonalUniqueCode の設定例で誤って Simple Attribute Definition を使っていたところを [Prescoped Attribute Definition](#) に修正しました。

ダウンロード: [attribute-resolver-template-2.0.1.xml](#)

学認技術運用基準(v2.0)に新たに追加された属性 gakuninScopedPersonalUniqueCode, isMemberOf の設定例を追加しました。

ダウンロード: [attribute-resolver-template-2.0.0.xml](#), [attribute-filter-template-prodfed-2.0.0.xml](#), [attribute-filter-template-testfed-2.0.0.xml](#)

各属性に割り当てるid(attributeID)をシステム運用基準に合わせる形で以下のように修正しました。今後SP接続情報等で掲載する情報はこちらを元にしたものになります。また、更新する場合は[attribute-resolver.xml/attribute-filter.xml](#)両方を同時に行わないと不整合が生じます。みなさまにおかれましてはIdPの属性設定ファイルの最新版 (バージョン1.2.x) への更新をご検討ください。

- email → mail
- organizationalUnit → organizationalUnitName
- jaorganizationName → jaOrganizationName
- jaorganizationalUnit → jaOrganizationalUnitName
- jadisplayName → jaDisplayName
- jagivenName → jaGivenName
- jasurname → jaSurname

※ jaSurnameおよびsurnameは現行の学認技術運用基準(v2.0)での表記と異なりますが、技術運用基準を修正予定です。→v2.1で修正されました。(2015-03-12)

ダウンロード: [attribute-resolver-template-1.2.0.xml](#), [attribute-filter-template-prodfed-1.2.0.xml](#), [attribute-filter-template-testfed-1.2.0.xml](#)

ダウンロード: [attribute-resolver-template-1.0.1.xml](#), [attribute-filter-template-prodfed-1.0.1.xml](#), [attribute-filter-template-testfed-1.0.1.xml](#)

- 属性設定テンプレート (SP用)

- [attribute-map.xml](#)

このファイルについて詳しくは、SPカスタマイズの属性の追加方法をご覧ください。

⇒[属性の追加方法](#)

- [attribute-policy.xml](#)

gakuninScopedPersonalUniqueCodeのScopingRulesを追加しています。その他、IdPから渡された属性をフィルタしてアプリケーションに渡す場合には適宜設定を追加してください。

i 更新情報2019年7月18日(3.3.0)

Shibboleth SP 3.0.x向けテンプレート - 3.0の配布物をベースとして再作成しました。
特にattribute-map-template.xmlについては、targeted-idの削除、unscoped-affiliationのコメントアウト、eppnへのcaseSensitive="false"の指定の追加などが行われております。

更新情報2018年8月23日(3.2.2)

学認技術運用基準(v2.2)に新たに追加された属性 eduPersonAssurance, eduPersonUniqueId, eduPersonOrcid を追加しました。
一部のja属性に欠けていたcaseSensitive設定を付与しました。Apacheのrequire構文等で大文字小文字が区別されなくなります。

Shibboleth SP 2.6.0の配布物をベースとして再作成しました。

学認技術運用基準(v2.0)に新たに追加された属性 gakuninScopedPersonalUniqueCode, isMemberOf を追加しました。
attribute-policy-template.xmlは gakuninScopedPersonalUniqueCode のスコープチェックのため今回新たに作成されました。

- メタデータテンプレート
 - IdPメタデータテンプレート
 - SPメタデータテンプレート

配布している属性設定テンプレートのファイル名と最新バージョンの対応は以下の通りです。Shibboleth IdP/SPのバージョンとは対応しておりませんのでご注意ください。

ファイル名	最新バージョン	ベースとなるShibboleth IdP/SPバージョン
attribute-resolver-template.xml	4.0.0	4.0.1
attribute-filter-template-prodfed.xml	4.0.0	4.0.1
attribute-filter-template-testfed.xml	4.0.0	4.0.1
gakunin-rules.tar.gz	4.0.0	4.0.1
attribute-map-template.xml	3.3.0	3.0.4
attribute-policy-template.xml	3.3.0	3.0.4